

ひまわりプロジェクト 2016

種まきと間引きのポイント

二月頃より募集開始となったひまわりプロジェクト二〇一六。現時点で八〇件以上の個人・団体より栽培協力の申し込みが寄せられており、今年も知人や地域の人々、イベント参加者などに配布するという協力者が多い。ひまわりの成育に影響のない時期まで、引き続き栽培協力者の募集を行う。

そしてひまわりの種を入荷したことで、種の送付が始まっており、申し込みのあった協力者のもとへ順次発送している。ひまわりの種は申し込みのあった数量を各協力者へ送付しているが、計量作業・袋詰め作業は、障がいを持つ仲間が働く施設「ベーシック憩」に行われている。栽培面積



▲ 種の袋詰め。施設の仲間が手作業で行います。

全国の様子など、種まきを心待ちにする知らせが寄せられています。引き続き全国のひまわり栽培の様子をひまわりプロジェクトなどで紹介する予定です。今年も福島からのひまわりで、全国が黄色に染まることを願っています。
(Y・K)

個人も団体さんも

みなさまのご参加
お待ちしております！



《栽培協力の申し込み / お問い合わせ先》

NPO法人シャローム
「ひまわりプロジェクト」実行委員会
〒960-8035 福島県福島市本町 5-31
(まちなか夢工房内)
TEL : 024-524-2230 FAX : 024-525-8285
Mail : yukari.k@nposhalom.net
(担当川島)

憩の仲間たちが
ひまわり情報を更新中♪



最新情報はブログ記事をご覧ください！
blog 「ひまわりプロジェクト 2016」
URL <http://shalom-net.jp/himawari/>

に合ったグラム数を量り、数の少ないものは粒数を数える。計量の済んだ種は、数量ごとに適切な大きさの袋を選び、封入する。作業は一つひとつ丁寧に、全国で大輪のひまわりが咲くよう想いが込められている。

毎年種と合わせて栽培マニュアルを送付していたが、本年は昨年のひまわり感謝祭にて行われた、「ひまわりプロジェクト地域間交流フォーラム」の報告書を同封している。報告書では、ひまわりプロジェクトの成果と課題について議論された当日の内容をまとめています。

また付録として巻末に、栽培マニュアルが記載されている。栽培アドバイザーの方によるひまわり栽培についてのお話や、地域間交流フォーラムの質疑応答で協力者から寄せられた栽培上の疑問を従来のマニュアルに反映し、まとめたものである。その中から、種まきと間引きのポイントについてご紹介したい。

【種まきの要点と注意点】

- 4月～6月まで幅広く蒔くことができますが、適期は5月上～中旬（搾油率が上がるため）です。
- 種まきの適期は、その土地の葉桜（ソメイヨシノ）の頃（山桜の開花期頃）を目安とするとよいです。
- ひまわりを、5月上旬・中旬・下旬にそれぞれ播種した場合、収量性は同等ですが、播種時期が早いほど草丈および花の位置が低くなる傾向にあります。
- 発芽までは1～2週間かかりますが、発芽後に霜にあたると枯死します。
- ひまわり栽培では、生育初期の雑草害が問題ですが、播種時期が早いほど、生育初期における雑草の発生量が少なくなります。
- 畦幅70cm程度、株間30～40cmとし、点蒔き（1点2～3粒撒き、深さ1～2cm）とします。
- 苗を作るときは、深めの育苗トレーに培養土を敷き、一粒ずつ撒いて、発芽させます。
- 種まき後は、発芽するまで水やりをまめに行いましょう。

【間引きと、鳥・虫・病気との戦い】

- 芽生えは鳥さんにとって大好物なので、すぐ食べられてしまうため要注意です。育苗したものを植えることで避けられますが、大量だと手間が大変です。
- ①大量の苗を用意するには
大量に育苗する場合の資材例（参考市販価格）
○シールドポット 80穴用（1,300～1,500円）
丈夫で繰り返し使え、ポリポットと同等の良苗が作れ、苗を取り出すのが楽で、移植作業がはかどりますが、価格が高いのが難。
○プラグトレイ 72穴（90円～100円）
プラグトレイの手植えに適したタイプ。価格も安価で、丁寧に扱えば5～6回以上使いまわしできます。大きな苗を作るには向きません。本葉2～3枚までの小苗用。
○ペーパーポット 11号 128穴（180～200円）
紙でできたエコ育苗箱！育苗中に各ポットの連結糊がはがれ、紙も土中で分解されるのでそのまま移植でき、根を傷めないすぐれもの。トウモロコシの移植栽培用です。（ただし、このポットには底がないので、使用に当たっては水稻用育苗箱とセットで使用することになります。）
- ②休耕地等の大きな畑で栽培する場合は、苗を移植するのは大変なので、やはり種を直接蒔くのが現実的かと思います。その際に、人手があれば点蒔きですが、すじ蒔き（鍬で浅く溝をつけ、その溝に種を蒔いて薄く覆土する。）の方が効率的ですが、種が余計に必要です。ばら撒きは、除草や収穫が大変なのでお勧めしません。
- 芽が出て、双葉が開いたら一本になるように間引きします。
- 間引きは、残すほうの根を傷めないよう地際からハサミなどで切るのが良い方法ですが、他に芽が出ない箇所がある場合には、そっと抜いたものを移植することも出来ます。